

加佐

学校だより 12月号

令和元年11月29日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<http://kasa.maizuru.ed.jp/>



率先垂範

師走の候 保護者・地域の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。2学期は体育祭や文化祭等、生徒たちが工夫した実践をご覧いただく好機となりました。「力を合わせてよいものにする。」という明確な目当てを掲げ心を一つに取り組む上級生の姿は印象的でした。そして、その背中を追って下級生が大きく成長する様子に胸を熱くしました。意気込みや努力が美しいハーモニーとなって体育館に響き渡った合唱コンクールの感動は生徒たちの心に刻まれ、新たな挑戦を支えるエネルギーとなります。

さて、2015年の国連サミットで採択された持続可能な世界の実現に向けた17の目標に沿って、世界の各方面で「持続可能な開発目標（SDGs）の実現」に向けた取組が進められています。舞鶴市が内閣府より選定された「SDGs モデル事業」などもその一つです。

グローバル化が進む中、将来の夢と希望を具体的に描く際に、身近な環境のみならず、世界的視野に立って協働・社会貢献する姿勢を、次代を担う誰もが意識する時代が迫っています。

SDGs の実現手法のひとつとして、「こうありたい。」という未来予想図から逆算し、活用すべき事項・なすべきことを整理して備える「バックキャスト」が改めて注目されています。よいものをつくるために力を合わせた、生徒たちの2学期の活躍の様子と重なります。



花いっぱい運動

「加佐」11月号の裏面に掲載しました「花いっぱい運動」は、校区の民生児童委員協議会をはじめとする皆様方にご支援をいただき、本校生徒が加佐地区の独居高齢者宅を訪問して交流する貴重な機会です。取組を終えた生徒たちの感想文から一部抜粋してご紹介します。

【感じたこと】

「おじいさん、おばあさんがとても優しくしてくださいました。僕も心が温まりました。」

「家の外で待っていてくださる方や折り紙で人形を作ってくださいている方など、とても楽しみにしていただいている、うれしかったです。」「おじいさんおばあさんとたくさん話せたし、楽しいひと時になりました。今までの一番の思い出をお訊ねした時に、あるおばあさんが“こうして訪問してくれて話せることや、周りの人達が支えてくれて元気でいられることが何よりありがたいこと”だとおっしゃっていて、その言葉が心に残りました。」「訪問先のお宅がわからなくなったときに近くにいた高齢者の方が教えてくださったり、お花を渡したときに“待っていたよ”“毎年、楽しみにしてるんや”と言ってくださってすごくうれしかったです。」

【自分にとっての「花いっぱい運動」の意義】

「一人で暮らしている方のお話を聴くことで、高齢者の多い加佐地区を、今後どうしていくべきか考える。」「地域の方にいつもお世話になっているから、その感謝の気持ちを年少高齢化社会だからこそ、私たちが伝える。」「お年寄りの喜ぶ顔が見たい。僕たちのコミュニケーション能力向上にもつながっている。」「加佐の伝統や文化を知ることができる。小中学生が訪問してお互いに楽しい時間を過ごして、一人暮らしの方に少しでも元気や安心を届ける機会」

地域ぐるみでより良い学びの循環を積み重ねる安定した学習環境の大切さを改めてかみしめ、感謝の心とともに令和元年12月を大切に締めくくります。

16日からは、保護者の皆様方には大変ご多用な中、三者懇談会のためにお時間をいただきます。生徒一人ひとりの理想の未来につなげていくための充実した時間になりますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

舞鶴市立加佐中学校 校長 福本 浩介 教職員一同